

HARP LIFE

04

2019

ハープと皆様を繋げる
オンリー・ハープなフリーペーパー



FIFTH
ISSUE
Vol.5

My Favorite in Harp's song

ハープ 私の1曲

株式会社銀座十字屋会長
第1回 中村 千恵子 『引き潮 EbbTide』

あまたあるハープの楽曲の中で、大好きな曲、思い出の曲などを、エピソードを交えながら語っていただく新コーナーがスタートしました。第1回目は、銀座十字屋会長の中村千恵子さん。同社は今年145周年のアニバーサリー・イヤーを迎え、ハープ専門店としてますますの発展を期している。ならば、テープカッターとしてはこの上ない人物として、新コーナーの端緒を切ってもらった。

中村さんが選んだ1曲は、「引き潮」だ。夫君の中村前社長が急逝して、当時専務であった中村さんは、急遽同社の社長へ就任。現社長の倉田社長と二人三脚で、ハープ専門店としての礎を築いてきた。日本初の西洋楽器輸入販売店として、扱ってきた楽器は無数。ハープはそのワン・オブ・ゼムのはずだった。だが社長就任以前から30年にわたって、ハープの音色には常に魅了されてきた。社長として現在の専門店路線へ舵を切る以前から、十字屋ホールや店内イベントでも、今日あるのを予想せず、ハープ奏者をゲストに迎えてきた。また偶然にも社章にハープが用いられていたことにも運命的なものを感じ、その後現在の活路を見出すことになる。その存在感と長い歴史、音の素晴らしさの割に、ハープは日本ではまだまだ知られていない楽器だった。しかも高価で、ピアノ同様、一般の家庭で簡単に買える楽器ではない。そこを敢えて専門店として参入したところに、中村さんを含め現経営陣がいかに「ハープの可能性」を重視していたかがよく判る。

特に愛でた曲が「引き潮」だった。自身は幅広く音楽を愛す、実に中村さんらしいチョイスだと思う。さらにハープの曲を貪欲に聴くようになる過程で、ルニエやアッセルマンの名曲にも感銘を受

ける一方、ハープはまだクラシックの楽器というイメージが根強いように感じた。「引き潮」は、ポピュラー／ムード音楽で、アメリカのハープ奏者ロバート・マックスウェルが作曲したもの。カール・シグマンが後から詞をつけて、ヴィック・ダモン、フランク・シナトラ、エラ・フィッツジェラルド、プラターズ、ライチャス・ブラザーズらが、全米で大ヒットを飛ばした。煌びやかなグリッサンドが、なるほど砂浜に寄せる波の情景に何ら違和感なくフィットし、嫌味がない。ポピュラーに属しながらも、ハープで奏でみるとクラシカルな雰囲気も醸し出す。それでいて、演技手による編曲も千差万別で「こうでなければならない」という杓子定規なところもない。ハープの曲でも、これだけの大ヒット曲が生まれる。その点は、まさに自分の矜持の反映だった。「音楽は本来、音を楽しむもの。けっして構えて聞くものではないと思います。この曲は、弾き手によってカラーが変わってゆくの醍醐味なのです」。

その後、十字屋ホールでハープ演奏の場を提供し、ハープの楽譜も世界中から取り寄せ、ハープの未来を追求し今日に至る。そして今でも同曲は、中村さんのお気に入りであり続けている。



The Last Chorus

●Harp Lifeでは、ハープにまつわるコンサートやイベントの協賛／協力を行っております。該当案件は、事前PRとして誌面もしくはWEBのHarp Lifeで告知する他、事後のリポートを掲載するケースもございます。但し、実施日3ヶ月を切った情報に関しては、扱いかねますので予めご了承ください。
お問い合わせ→ harplife@ginzajujiya.com

●あなたの街へ、銀座十字屋がお伺いするハープキャラバン。6月1日＝福岡「FFBホール／3号ホール」、6月2日＝広島「広島市交流文化会館・すみれ」、7月には大阪、名古屋へお邪魔する予定です。今後とも各地で展示会を行いながら、皆様にお気に入りの一台と出会って頂ければと考えております。どうぞお気軽に参加して下さいね。

●新春よりハープライフWEBがスタートしております。随時コンテンツも更新していきますので、まだご覧になっていない方は、ぜひアクセスしてみてくださいね。



EVENT
SQUARE

スイ
ク
エ
ン
ト
!

4/13 4/14 4/15 ヤナ・ボウシュコヴァ
長野・愛知・東京

4/14 高野麗音&中村美音
埼玉・茨市立文化ホールくるる

4/20 山宮るり子&山形由実
岐阜「三甲美術館」

4/21 佐藤理絵子&松本直子
東京・茗荷谷「ラ・リール」

4/29 景山梨乃&上野由恵
埼玉「椿峰コミュニティ会館別館ホール」

Spring has come!
Brandnew
START!

ハーペラーニングへのお誘い

今春より、銀座十字屋がEラーニングを開始するという。同社のホームページから体験できるらしい。インターネット環境が各家庭によっても異なるため、SNSなどによる即時対応は見送られたものの、あらかじめ銀座十字屋専用にプロを起用して収録されたビデオを観ながら技術を学んでゆく、ペーパー・ビュー・スタイルとなる。スタート時の講師は、二人。当代若手の注目株にして、すでに技術的には世界最

高クラスと云われるサーシャ・ボルダチョフ。そして、日本人ハーピストとして現在アメリカ在住、ジャズを基調にしたクロスオーバーな音楽性を世界が認める古佐小基史。いずれも独自の高い音楽観と精神性を併せ持ち、ハーペ教育にも一家言を持つトップ・ハーピストたちである。インストラクターから直接受講するレッスンは、やはり何にも代えがたい。銀座十字屋も主催するハーペ教室が一番であるという矜

持は変わらないというが、一方でトップ・プロからの助言で学び手が、何らかの気付きを得られるかも知れないのも事実。無論、賛同頂ける講師も順次参加を促す意向だという。どうしてもハーペの教室が都市部へ集中してしまう傾向が、こうしたシステムによって差異が無くなるかも知れない。一部コンテンツは、無料期間もあるそうなので、まずはトライしてみたいかがだろうか。

インストラクターから
直接受講するレッスンは、
やはり何にも代えがたい。

Invitation to HARPE-Learning



Message from lecturers

●サーシャ・ボルダチョフ(ハーペ奏者)

ハーペの上達は、練習によってもたらされるものだと思います。始めるきっかけは人さまざまだと思いますが、詰る所、日々の鍛練によって積み重ねていくしかありません。私もある日急に「モルダウ」や「シヨパン」をハーペで弾けるようになったわけではありません。Eラーニングでは、皆さんが目の前にいるつもりで、ライブ感を大切に、実践的な動きを皆さんへお伝えしました。近々、私がいま執筆中のメソッドもご披露できるかもしれませんから、そちらも活用しながら、楽しいハーペ生活を送れるよう祈っています。

●古佐小基史(ハーペ奏者、作曲家)

オンデマンドで教材を閲覧できるEラーニングは、地方でハーペを学ぶ皆さんや本業や家庭生活の合間の貴重な時間をやりくりしてハーペを演奏しているみなさんにとって、とて

も大きなサポートになると思います。「先生に見てもらわないで自分勝手にやっていると、変な癖がついてしまって、後で苦労するから…」という声もよく耳にしますが、一度身についたことがなかなか修正できない理由は、身につける段階でその原理を理解しないまま、ただフォームの模倣、あるいはなんとなくやっているからに過ぎません。自分なりに原理を理解してやっていることであれば、もしそれが正しいやり方ではないとわかった時、例えば、肘や手首を演奏によって故障したり、より複雑な曲に対応できないという状況になったときに、より正しい原理に従ってやり直せば良いのです。

まず、フォームやテクニックが「なぜそうではなくてはならないのか」ということを理解し、「思ったときに、思ったように、楽に良い音が出せる」という基準に照らし合わせて、正しく演奏できているかどうかを自己チェックし続けてい

れば、自ずと正しい演奏法へと導かれていきます。このビデオシリーズでは、生のレッスンで与えられるようなインスピレーションが感じられる臨場感を大切に、すぐに使える具体的な知識や技術の情報に加え、演奏者の心理、人生における音楽との関わり方、音楽の感じ方、自分自身の心と体の感じ方など、精神的な部分についてもお話ししてゆくとつりです。皆さんがハーペを独学する中で「こんな教材があったらいいのになあ」と思っていたビデオを、皆さんにお届けできるよう頑張ります。



Spring has come!

Brandnew
START!

HARP RENTAL

～レンタルから始める春ハープ～

なにか新しいことを始めるには、絶好の季節である春を迎えて、
いざハープでも始めてみようと思っても、いきなりハープを購入となると、
いささかハードルが上がってしまう。
だが銀座十字屋がハープ・レンタルをやっているというので、
さっそく取材してみた。

単にレンタルであれば、他にも同じようなサービスはあるのだろう。しかし、よくよく聞いてみると、サルヴィハープスの日本代理店でもある銀座十字屋で借りると、レンタル期間もしくはレンタル終了後1ヶ月以内であれば、支払ったレンタル料は、「よし、銀座十字屋でハープを買おう!」と決めたら、そのレンタル料が代金へ充当されるのだ

(詳細は問合せ時に要相談)。レンタル対象機種は、25弦レバーハープから47弦ペダルハープまで全部で4機種。ダフネ47S、ダフネ40、ミア、ジュノー25というラインナップが揃っている。ジュノーなら3ヶ月から、その他3機種は半年間レンタル可能だ。

JUNO
25
膝に乗せても弾ける
ミニハープ



MIA
ベーシックな
34弦レバーハープ



DAPHNE
40
40弦の小型
ペダルハープ



DAPHNE
47S
ストレートボディの
47弦ペダルハープ



ペダルハープに関しては、どうしても重量があり、大きいので東京・神奈川・千葉・埼玉・群馬・栃木・山梨に配送地域が限られてしまうが、レバーハープは業者配送にて全国(離島や一部地域は除く)でサービスを利用できる。だから、サルヴィハープの性能や自分との相性を見極めるには十分な期間とリーズナブルなレンタル料で、春ハープが実現できてしまうのである。

チューニングハンマーやチューナーなども付属してくるので、着いたその日からハープを弾くことができるのが

嬉しい(チューニングハンマー等は要返却)。唯一気を付けなければならない点があるとすれば、到着時・配送時のハープ梱包かもしれない。デリケートな楽器を梱包するという慣れない作業ゆえ、銀座十字屋のスタッフに実際の作業を実演して頂いたので、図解通りにやればOKである。まさに至れり尽くせり。

さあ、迷わず春ハープ、始めてみませんか?
お問い合わせ・お申込み: 銀座十字屋ハープセンター
☎03-5635-3380(平日10:00~17:00)



①ハープが届いたら、まず注意深く箱からハープを取り出そう。外箱は返却時に必要なので保管しておこう。



②本体だけではなく、付属品一式もチェックしよう。弦などの消耗品以外は、すべて要返却なので注意が必要だ。



③高温多湿なところは避けて、ハープを設置したら、さっそくチューニングをしてからハープを始めよう。



④返却時は、指定の箱に配達時の状態に近い形でパッキング(ペダルハープは、銀座十字屋スタッフによる搬入出となる)。

KOJI AMADA Collection vol.1

雨田光示コレクション

このたび小誌では、
伝説の雨田コレクションを紐解き、
遺産を継承されているご子息の
ご好意により、幻とも云われる譜面を、
レバーハープをさらに普及
させるための一助として、掲載
してゆくことにした。

雨田光示氏は、1957年に日本で初めて小型
ハープを紹介し、その後父君と共にアマダハープス
スタジオを開設。多くの優秀なハープ奏者を育て上げ
た。1947年、52年、55年にはオランダ国際ハープ週
間に招かれ、アンサンブルを率いて渡欧。ヨーロッパ
各地でも演奏した。父の郷里である福井県との縁
も深く、63年福井ハープフェスティバルの設立に関
わり、運営委員会顧問を務めたが、2009年に惜しく
も他界した。多くの後進を育てた元となった教本や
譜面などは、その多大な実績にもかかわらず、版を
重ねられることなく、入手困難となっていた。いつし
かそれらの譜面は、ハープ学習者たちの垂涎の的
となり今日に至っている。本号では、まずアルペジオ
の練習やフォスターの「夢みる人」などを収録する。



Point of the PERFORMANCE

演奏のポイント

アルペジオ(分散和音)は、ハープ奏者としては避
けて通れないテクニックのひとつです。そもそもアル
ペジオの語源として、「ハープのように」という意味も
あります。雨田氏曰く「どのような演奏技法でも、それ
が自由に楽しい音楽表現の中に出てこなければ、
ほんとうに身についたとはいえません」。そんな至言
を肝に命じて、粒のそろった美しいアルペジオで
「フォスター/夢みる人」に、チャレンジしてみましょう。
※尚、譜面の掲載にあたってはオリジナル譜の表
記を尊重しております。

<31> 指 4 3 2 1
左手 2

<32> 1 2 3 4
左手 2

<33> 1 2
左手 2

<34> A 1 2 1 2
B 左手 2

<35> A 1 2 3 4
B 左手 2

KOJI AMADA Collection vol.1

夢みる人

フォスター

<49>

右手 3 4 1

左手 1 2 1 1 2 1 3 4 1

<50>

<51>

Harp Caravan

ハープ・キャラバン第5回

東京・茗荷谷
「ラ・リール」

森の中の陽だまりに現れた小さなコンサート・ホールといった趣だろうか。ハープ弾きにとって、知る人ぞ知る同ホールは、東京・茗荷谷にある。周囲を学校に囲まれている閑静な文教地区だが、一般の方にはあまりなじみはないかも知れない。丸の内線の茗荷谷駅から徒歩5分弱も歩くと、瀟洒(しょうしゃ)な〴〵お城、がある。昼過ぎにお邪魔したら、西陽がさして本当にそのように見えたのだ。

ラ・リールが特別なのは、訳がある。それはオーナーの迫本さん自身がハープ奏者であり、建物そのものがハープの音響が最適に響くように設計された、いわばハープのためのホールであるからだ。オープンしてから20周年を迎えようとしているのに、行き届いた管理で、さほどの年月は感じさせない。まさにハープ奏者たちの夢の実現なのだ。迫本さんにはさらに願がある。もっともっとハープ奏者の皆さんにホールを借りてほしいと言うのだ。「スペースやお値段の手頃さからか、ハープ奏者より、



ラ・リール ホール内部

まさにハープ奏者たちの、夢の実現。

よく声楽やピアノの方がお借りになります。ですがよく響く分、ハープほどには(音が)フィットするかどうか…」と、迫本さん。オープン以来、値上げもつい最近止むに止まれずしたばかり。それでも都内ではかなりリーズナブルだ。ご本人もやはりハープを奏で、ハープ奏者を育てる場として造っただけに、ハー

プの音を響かせたい想いは強い。とあるハープ・コンサートで、第一部でハープが故障してしまい、ラ・リール所有のハープで代替して事なきを得たこともあるという。同じ音楽家ゆえのアドバイスをくれたり、相談にも乗ったりしてくれる。ハープ奏者の為の理想郷を見たような気がした。



ラ・リール外観



ラ・リール入口

季節の おすすめハープ Vol.5

季節ごとに、毎号1台ずつ
銀座十字屋がおすすめする、
素敵なサルヴィハープ。
今回は「オーロラ」です。

上位機種と
何ら遜色ない
パフォーマンス。

よくお値打ち価格であるとか、コスト・パフォーマンスが良いといった表現を目にしますが、そういった言葉をハープに冠するのならば、まさにサルヴィ・オーロラにこそ相応しいのではないのでしょうか。

支柱の堂々たる面構え。あくまでもシンプルなボディラインは、主張し過ぎていないのにバランスよい美しさ身にまとい、そのまろやかなサウンドはコンサートなどの重要な場においても、あらゆるレベルのプレイヤーの要求に十分応える音質を誇ります。基本性能が長年に渡りブラッシュアップされ続け、さほど癖もなく、実に「ハープらしい音」が出る。それでいて、お値段据え置きという平均点の高さこそが、名作ハープとしてロングセラーを続ける秘密なのかも知れません。

カラー・バリエーションは、マホガニー、エボニー、ナチュラルメイプル、そして今後は特別発注色となったウォールナットから選べ、使用している木の材質は、他のサルヴィ高級機種と同じイタリアのフィエンメ谷より切り出したレッド・スプルース。上位機種と何ら遜色ないパフォーマンスは、きっとあなたを上達に導き、ハープを弾くことの楽しさを永く与え続けてくれることでしょう。



Aurora

オーロラ